

① 9年1組 神戸 毅裕

無事卒業式を迎えられること、先生及び保護者の方々に感謝いたします。

今日、僕は中学校を卒業します。ですが、僕は卒業とは何をすれば良いのかわかりませんでした。卒業証書を貰えばそれでいいのか？ それが3年間の集大成といえるのか？ 何に卒業すれば良いのか？僕は、自分が納得できる卒業をするために考えてきました。今日は、それについて僕の意見を皆様にお伝えしたいと思います。

僕たちは、それぞれがオリジナルであり、そのオリジナルが作り上げた「誰とも分かり合えない世界」で生きています。僕はそんな世界で誰とも分かり合えないのだからということと理由に、身勝手に自分の好きなことしかしていない子供でした。今もそうかもしれません。そして、その道が途絶え、僕が一番大切にしていたものを奪われた時、何も持たない人間になってしまいました。それは僕にとって、初めてのことであり、かなり衝撃的な出来事でした。何も持たない人間の生きるということは、僕の想像以上に苦しいものだったのです。

人は弱いものだから、どんな形であれ自分の中で絶対に揺るがないものがなければ生きていけないということ。その何かを見つけるために、厳しい世界に身を置いているということに僕は思い至りました。そして、僕の中のそれはすでに見つけていたのです。

なぜなら、この失敗は、それに僕がいかにか支えられていたのかを残酷ながらに表しているからです。そして、もう一つのことを表しています。それは、僕たちは身勝手な子供でいることをやめて、いつか他の命を支えることができる大人になる必要があるということです。

では、どうすれば大人になることができるのか。僕は、間違いながらも傷つきながらも学んでいくほかなく、そのことを「卒業」と言うのだと思います。今日、僕は今までの自分自身に卒業をしにきたのです。

以上です。ありがとうございました。

② 9年2組 成田 陽緒

私は中学1年生の11月から学校に行けなくなり、8年生の2学期に転入してきました。いじめられていたわけでも、問題を起こしたわけでもなかったけれど、どうしても学校に行きたくありませんでした。私が元々通っていた学校は、かなり厳しい公立で、絶対に守らなくてはいけない校則や生徒たちの間での暗黙のルールみたいなものがたくさんありました。それが、私には合わなかったんです。

私の話を聞いた両親は一緒に考え、悩んでくれました。そして、私に合うのは明星ではないか、と転校を提案してくれました。何度か明星を見学して、私は明星に転校する事を決めました。

そこで私は転入試験のために試験勉強を始めました。しかし、第一段階、ここで私はつまずきました。私には頑張り癖、というものが無かったんです。いやだな、と思ったらすぐに他のことに逃げて本来ならやり切らなければならない事を中途半端に終わってしまう。それがその時の私でした。それでも、公立に通っていた間にしていた勉強のおかげか、明星には

なんとか転入することができました。

実は、私が転校を経験したのはこれで8回目でした。その理由は引っ越しだとか、色々あるんですが、まあ、私は転校に慣れていたんです。だからか、私の中には周りに合わせておけば大丈夫という経験則がありました。実際、8度した転校のうち7度は新しい学校になじめていました。

しかし、第二段階、ここでも私はつまずきました。8回目、明星に転入した時は馴染めるところか付き合いにくい、と思われてしまいました。私はその時、中々馴染めない不安と早くしないとまた失敗してしまう、という焦りでいっぱいでした。けど、今から考えたら周りに合わせて自分の思っている事を言わない私は、相当つまらない人だったんだと思います。

8年生の間はそんな感じで、周りに合わせながら何となく日常を過ごすという風にしてきました。だから、周りの人の性格とか、きつとこんなものが好きなんだろうな、とか、そういうのは全然分かっていませんでした。そんな、適当な私と仲良くしてくれた人がいたことが奇跡だったし、感謝しています。

他人に合わせない方が自分も周りも気分がいいと気づいたのは、9年生の2学期でした。私は元々一緒に行動していた友達とは違う子といることの方が多くなりました。元々一緒にいた子たちはすごくいい人達で、話していて楽しいし大好きでした。だけど、好きなものが噛み合わないという悩みがありました。私は自分の好きなものを大声で好きだ！と言うこともあまりなかったし、私1人が好きなもののお話をしてもきつと楽しくないだろう、そう思っていました。その結果なんとなく話を合わせるが多くなり、私にとって負担になっていきました。

そこで仲良くなったのが今一緒にいる子でした。昔やっていたこととか、好きなこととか、私はこれが好き！って言っても話が弾む。凄く楽しかったし楽でした。私はだんだんその子といることが多くなって、元々一緒にいた子達とは離れるようになりました。かといって、仲が悪くなったわけではありません。一緒に行動するのをやめただけです。

これが、転機でした。これまで一緒にいた子達の話が面白いと思えるようになったんです。きつと、ずっと一緒にいない分、理解できないことがあっても大丈夫、という姿勢で話を聞いていたからだと思います。私が相手の話を面白いと思って聞くようになったからか、相手の子も私の好きなことのお話を快く聞いてくれるようになりました。

ここまでの話は私の視点で感じていた事なので、もしかしたらその子達は特に深く考えていないかもしれません。けど、ここまでの経験で私は凄く成長できたんです。まず、周りとは合わせることが無くなりました。自分がしたいと思うことは1人でもできるようになりました。そして自分の意見を持てるようになりました。他人が言った言葉で落ち込む事とか、そのことをぐじぐじ考えることが無くなりました。他人の行動に左右されなくなったので、自分の好きなこと、やりたいことをやってみようと思えるようになりました。

最初に話した頑張り癖はまだまだ足りないけど、自分を持つことはできているのでまず

まず OK です。中 1 の時、学校に居心地の悪さを感じていなかったら、もし明星じゃない学校に転入していたら、この学年じゃなかったら、私はこんなふうに考えることもなかったかもしれません。けど、私は今こうしてここに居て、明星の卒業生の成田陽緒です。

先生方、仲良くしてくれた友達、両親、たくさんの人、本当にありがとうございます。今、私がここにいるのはみんなのおかげで、その全員がいたからです。代表で話すというには自分の話をしすぎちゃったかもしれません。けど、本当に皆さんあってこそ私の私なので！

2020 年 3 月 15 日、私たちは今日、明星学園中学校を卒業します。これからの人生、まだまだ長いので、たくさんたくさん成長していきます！ 本当にありがとうございます！

③ 9 年 3 組 那須 楓子

小学生の時、私は学校に行かなくなりました。行けなくなったのではありません。自分の意思で、絶対にあんなところ行ってやらないと決めたのです。みんなに合わせることにそんなに大事だと思えなかったし、違うことをした私のことを笑う大人が、大嫌いでした。

明星は、そんな私を色眼鏡で見ることなく、受け入れてくれました。先生は、何をしても温かい目で見守ってくれました。こんなに生意気で、可愛げのない私を面白いと言ってくれました。その全てが、一度は大人を信じられなくなりかけた私にとって、どんなに嬉しいことだったか、言葉では表しきれないほどです。この 3 年間で、大嫌いだった学校は、悪くないな、になって悪くないな、から大好きな場所が変わっていきました。

お母さん、お父さん、そして家族のみんな、私のことを大切に大切に育ててきてくれて、本当にありがとう。あともう少しだけ、一緒に頑張ってほしいです。不安定な時も、私を温かく見守って下さった先生方、生意気で申し訳なかったけれど、本当にありがとうございます。

そして、ここまで一緒に過ごしてきた 9 年生、本当に色々なことがありました。ケンカをして、もう絶交だ！って思ったりしたけど、仲直りしてくれた友だち。一人だった私を受け入れてくれて、一緒にバカみたいなことをしてくれた友だち。自分に居場所があることが、こんなにも嬉しいことだなんて知りませんでした。みんな本当に、ありがとう。

今日、この式が終わってしまえば、私たちはもう中学生ではありません。そしてそれは、居心地の良いこの学校にいられるのがあと 3 年という、長いようで短いことを意味します。こどもでいられなくなった私たちにとって、未来というのは果てしなく長く、不透明で、なのに妙に現実的なものです。明るくなんてありません。この先、どうしていけばいいのか、どうなっていくのか不安で不安でたまりません。けれど私たちは、前に進まなければなりません。どんなに居心地が良くても、いつかは旅立たなければなりません。だから私は思うのです。真っ暗なこの先の人生を、手探りで、もがきながら歩み出そうと。時に、この校舎での素晴らしい記憶に思いをはせて。一歩ずつ、進んでみようかな、と。

④ 9年4組 逸見 恒太朗

僕は8年生の2学期に明星学園に転入させていただきました。転入して最初に感じたことは、先生と生徒の距離がとても近くて、何でも話せる雰囲気があり、クラスに活気があって、そしてそれぞれの個性を認め合っているということでした。

それまで、先生の考えに沿った意見がよしとされる学校にいた自分にとっては、とても衝撃的でした。最初は授業で発言できなかつた自分も、先生方のご指導やクラスメートのおかげで徐々に発言できるようになり、いろいろなことに積極的に取り組めるようになりました。

入学してすぐに入った野球部では、いつも練習を楽しみにしていました。与えられたメニューをただこなすのではなく、自分たちには何が必要なのかということ、部員みんなで話し合い、一つ一つ意識付けをしながら練習をしてきました。そして「公式戦で勝利する」という目標に向かって、みんなで努力し、その結果目標を達成することができました。一つの目標に向かってみんなで努力したことで、チームメートとの連帯感が生まれ、勝利したことが本当に嬉しく、とても大切な経験になりました。

この他にもオーストラリア留学や陸前高田への社会科旅行、そして運動会では実行委員として小学校の子どもたちのお世話をしたり、企画したりして、自分たちで作り上げたことなど、貴重な体験を沢山させていただきました。これらの経験ができたのは、明星学園に入学させていただき、先生方をはじめとした多くの方々の温かい見守りとサポートがあったおかげと感謝しています。

これからも中学で学んだことを活かし、高校でも学業と部活を両立させ、人間としても成長したいと思っています！！ 本当にありがとうございました。